

熊本市に対し来年度の予算交渉を行いました

市内の民主団体などで構成する「平和と民主主義・くらしを守る熊本市民連絡会」は、10月21日、来年度予算について、震災からの復興や福祉・教育などの切実な要望を反映させるよ

う、熊本市に対し要請を行いました。共産党市議団も参加し、市民からの要望が実現するよう求めました。



要望項目

熊本地震の復旧・復興について

- ・ MICE 施設はやめて、その費用は生活や住宅などの再建、震災復興に充てること。
- ・ 一部損壊への市独自の支援を行うこと。
- ・ 高齢者や障がい者に配慮した復興住宅を建設すること。
- ・ 白川の河川改修を急ぎ、立野ダム建設は中止すること。

福祉・障がい者・生活保護・保育などについて

- ・ 障がい者のさくらカードについては、1割負担をやめ、無料にすること。
- ・ 希望荘の早期再開を。
- ・ 震災後、現行の家賃基準では住宅の確保が困難であり、生活保護の住宅扶助費を増額すること。
- ・ 看護師の配置が必要な学校に対して、市民病院の看護師の派遣をおこなうこと。
- ・ 認可外保育所にも災害復旧費補助金を支給すること。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか 山部ひろし

熊本市中央区手取本町 1-1 3階

NO. 1020

2016年10月30日

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：http://www.jcp-kumamoto.com/

教育について

- ・ 子どもの医療費助成を中学3年まで拡充すること。自己負担の500円を廃止すること。

- ・ 小中学校の普通教室にエアコンを設置すること。



実現に向け動きがありました。

教室へのエアコン設置 国の補助が決まり再始動へ

小中学校へのエアコンの設置については、国からの補助が不採択となり、設置に向けた動きがストップしていました。

しかし、市民からの要望と合わせ、市としても繰り返し国に求めるなか、今回、国の補助が決定し、エアコン設置に向けた取り組みが再始動することに

なりました。

中学校は、来年度夏までに設置、小学校の前期分（温度調査で温度が高い上位46校）については12月議会で補正予算が計上され、来年度の夏休みから着工。残りの46校についても、継続的な整備に努めるとしています。

【控え室から】
 龍田西小学校開校式―校歌にこめられた思い
 やまへひろし

10月16日、北区に新設された、龍田西小学校の開校式に参加しました。

式典は、児童を中心とした、ブラスバンド演奏や開校への思いを学年ごとにアピールする「よここびの詩」など、従来の枠にとられない素晴らしい式でした。

なかでも私が最も感銘を受けたのが、校歌です。

校歌の作詞・作曲を手掛けたのは、劇団・天然木の久枝隆子さん。

3つの歌詞からなる校歌は、それぞれ「成長・友情」「自然・生命」「平和」のテーマが掲げられています。式典で久枝さんは、「平和」をテーマにした歌詞について、その思いを児童たちに丁寧に語りかけました。

「この空は世界に繋がっている。世界では貧困や紛争で苦しんでいる多くの子どもたちがいる。この校区では縄文時代の遺跡が多く発掘されている。一万年もの長き間、戦争することなく人々が暮らした縄文時代、それは一人ひとりが平等で大切にされていた時代。その精神を受け継いでいこう。」

世界を学び、歴史を学ぶ。そして平和な未来を自分たちの手で作っていこう」

校歌にこのような平和の願いをこめた作者の思い。龍田西小の子どもたちに、どんな未来の担い手になってほしいかが、とてもよく伝わってくる校歌でした。



MICE 優先、暮らし・福祉切り捨てが明らかになった決算

9月議会で、上野みえこ議員が「2015年度一般会計・特別会計決算」に反対討論を行いました。主な点を紹介します。

説明責任も果たさず、桜町再開発・MICE 整備 450 億円を推進

市政史上最大の箱モノ建設となるMICE施設(仮称)「熊本城ホール」の整備には、桜町再開発の建築物解体費に7億円余が助成されました。

民間所有部分に比べ3倍も高い約300億円の保留床取得金の積算根拠は示されません。700億円超の工事費は随意契約で、契約情報の公開も極めて不十分です。

花畑広場整備 20 億円のムダ使いを推進

産業文化会館跡地の隣の民間ビル2棟の用地買収が完了。総額15億2000万円の用地費の残額、3億8619万円が執行されました。

現在、裁判で争われ、15億円

の用地買収の必要性が争点です。今後20億円もの事業費が予定され、市財政の大きな負担です。



「パス券」廃止で、障がい者に大幅負担増を押しつけ

昨年度末、さくらカードのICカード移行が行われ、障がい者のパス券が廃止されました。

障がい者の声に耳を貸さず、パス券を廃止。年間2000円負担の

定額制がなくなり、「1割負担」により、利用者負担は、数倍にも増えました。障がい者には、「利用しにくい」「負担が重い」という2重の負担となりました。

一般会計繰り入れの削減で、国保会計は大幅な赤字に

国保会計への一般会計繰り入れは、20億円から2015年度は一挙に8億円に減額、単年度収支は21億円の赤字、累積収支も43億円の赤字となりました。

一方、政令市で高い方から2番目の保険料値上げが決められました。

2016年度も繰り入れ額は8億円のままだので、単年度収支の赤字、累積収支のさらなる悪化が予想されます。

また、保険料取り立ては給与や家賃収入までが差し押さえの対象となりました。

国保会計は、2019年度に

県への移管が予定されており、そのとき赤字は、市が責任をもって解消しなければなりません。

制度の矛盾を深めるような一般会計繰り入れ削減はやめ、負担の限界を超えた保険料は引き下げるべきです。

また、国民健康保険の健康事業である「あんま・針灸助成事業」は、削減されてきた利用回数を元に戻し、利用しやすい制度へ改善すべきです。

